



Fig. 5 (a) Yagi and Kikuchi (2003)の時間依存インバージョン法を用いて、7月16日から8月6日までのGPS水平・上下成分の時系列より推定した余効滑り分布のスナップショット(7日ごとの変化分). コンター間隔は60cm/yr. 推定誤差(b)参照)を考慮し、 $2\sigma$ の信頼限界を上回る240cm/yrのコンターを太線で示す. 星印は本震の震央位置. 断層モデルは地震時滑り解析と同じものを用い、滑り角は97度に固定((c)の矢印)して推定を行なった. (b)(a)の推定誤差分布. コンター間隔は同じく60cm/yr. (c)余効滑りの積算値. コンター間隔は3cm(ただし本目は6cm). 最大値付近の矢印は設定した滑り方向を示す. 解析領域全体(黒枠内)でのモーメント解放量は $2.8 \times 10^{18}$ NmでMw6.2に相当する. 赤枠内では $5.4 \times 10^{17}$ NmでMw5.8相当. 地震時滑り分布(Fig.3)を青コンターで、国土地理院による断層モデル(7月26日版)を黒線でそれぞれ示す. 断層の上側を太線で示す.

